

特別企画

地域の特性を生かして人気プログラムを実施するクラブ

岬町総合型スポーツクラブみさきタコクラブ ＜大阪府岬町＞

総合型クラブが地域に根差し、愛されるクラブとなり自立・自律するに至るためには、地域に定着・浸透することが必要となります。

そこで今回は、地域の特性を生かしたプログラムを実施するクラブを紹介します。

1 クラブ概要

行政からの財政的支援受けず、年会費のみで運営

町教育委員会生涯学習課主導の下、平成17年に、岬町の体育協会、スポーツ少年団、子ども会育成連絡協議会、体育指導委員協議会（現スポーツ推進委員協議会）の担当者が集まり、設立準備委員会を結成し、2年間の研修や既に設立されている府内のクラブ視察、社会人チームを招いて練習指導を受けるなどの準備期間を経て、平成19年2月25日「岬町総合型地域スポーツクラブみさきタコクラブ」が設立されました。

設立が決まった時点で準備委員会を解散して、改めて組織を編成しました。体育協会、スポーツ少年団、子ども会から会長・副会長を選出し、各団体が事業に協力。教室の指導は体育協会、スポーツ少年団にお願いし、両団体では実施していない種目の教室は外部委託することにした。

クラブ名は、名産の「泉蛸(たこ)」が由来

設立に先立ち、クラブ名は「岬町総合型地域スポーツクラブ」と決まりましたが、「堅苦しすぎるから愛称をつけよう」と全町民に愛称を募集したところ、「泉蛸と言う美味しい蛸の産地だから、タコクラブ」の応募があり、これを採用し正式にクラブ名が決定しました。

海・川・山など自然環境に恵まれた岬町

岬町の自慢は、海があり、川があり、山があり、他にも公園、夕日、魚釣りなど自然と環境に大変恵まれている町です。このような自然と環境を大切にして、自然を大いに利用したスポーツ・文化活動を通じて、地域で出会うことに喜びを感じ、触れ合うことを大切に、楽しさを分かち合うための活動を進めています。

小中学校の体育施設、町民体育館などを活用し、親子・家族・グループ・誰でも気軽に「する」「みる」「ささえる」スポーツの普及・文化活動の環境づくりと、地域住民の健康増進、世代を超えた交流を促進し、さらに次世代を担う子どもたちの健全育成を図ることを目指し活動をしています。

年会費のみで全教室に参加可能

「総合型地域スポーツクラブはスポーツの寄せ鍋」の考えで、個人会員に入会すると、年会費だけで全ての教室を楽しむことができます。また、自主運営を目指し、行政からの財政的な助成は活用せずに、会員の年会費だけで運営。そのためスタッフは全て無給のボランティアで運営しています。

設立当初より町スポーツ振興の中心である、町立体育館の一部を事務所拠点とし、事務所一室と倉庫一室を町より貸与を受け、クラブの活動だけではなく、町教育委員会生涯学習課や町の行事にも協力を行っています。

令和元年度時点で、小学生から高齢者まで個人会員98名、サークル会員(団体会員)9団体が登録、定期教室7種目9教室、体験教室6種目8教室、年数回のイベント(全町民対象のグラウンドゴルフ大会等)開催などの活動をしています。入会前の体験は、定期、体験いずれの教室も無料で参加できます。

2 実施プログラムの内容

■ 海洋マリン教室 ■

小中生対象の「マリンプログラム」を中心に12年継続

岬町には、『マリンスポーツを主体に海の大切さや楽しさを知り、仲間づくりができる』大阪府立青少年海洋センターがあります。海洋センターの施設および指導スタッフの力を借りて、タコクラブの教室が開催することができないかと、海洋センターと協議を始めました。

参加者の募集はクラブが実施、プログラムの内容は両者が協議して決定、指導は海洋センター、安全監視はクラブが担当することで合意し、平成20年から年間6回の実施と決まりました。安全監視面ですが、伴走艇に同乗するほか、陸から子どもたちの様子を監視し、異常を見つけた際にはすぐに対処できる体制を取っています。

参加者募集は町内全小中学校の児童生徒に募集チラシを配布、各家庭にも同じ内容のチラシを月1回発行の町広報誌に挟んでもらい周知。また、クラブと海洋センターのホームページに掲載して参加を呼びかけています。

平成20年4月27日、記念すべき第1回教室を開催。参加者は7名と少人数でしたが、回を重ねる毎に増え、この年は17名参加の回もありました。以来12年続いています。12年間の平均教室登録人数が約36名／年（最高47名）で、平均参加人数は約17名／回。参加者は大阪府の各地域からだけでなく、和歌山市からの参加者もおります。

海洋センターで実施している多くのプログラムのうち、低学年でも安全に楽しめる「マリンプログラム」は、カッターボート、OPヨット（オプティミストディンギー）、カヌー、自分たちで作るいかだ、クルーザーによるクルージングの5種類です。また、昼ご飯を自分たちで作る野外料理やグラウンドゴルフなどのゲームを楽しむ「フィールドプログラム」があります。さらに、塩づくり体験などの「インドアプログラム」を組み合わせ、参加の子どもが飽きないよう、また保護者の負担が少しでも軽くなるよう工夫してプログラムを作っています。



海洋マリン教室OPヨット
風を受けス～イスイ



海洋マリン教室カヌー
きれいにつながりました

■ファミリー魚釣り大会■

参加者に大好評の会員交流イベント 約束事定め定例行事に発展

会員交流イベントの一つとして、釣り好きのスタッフが中心となり企画、平成30年に開催しました。実施すると大好評のため以後は定例行事になりました。実施にあたり以下の5項目の約束事を決め、海洋センター、ヨットハーバー、大阪府磯釣り連盟にお願いすると快く引き受けていただき開催することができました。

- 青少年海洋センターおよび隣接の淡輪ヨットハーバーの栈橋を釣り会場として借りる。
- 栈橋に出るためのライフジャケットは海洋センターで借りる。
- 釣り経験の無い人でも参加できるよう、大阪府磯釣り連盟から釣竿、リールを借りる。
- 釣り針、おもり、餌、氷など必要なものはクラブで購入する。
- 参加者の持ち物は、釣った魚を持ち帰る入れ物(クーラーボックス等)だけ。

3団体の協力で経費・運営両面でメリット

3団体に協力依頼したことで、経費面の抑制というメリットが生まれました。また、磯釣り連盟からは会員さんがスタッフとして参加し、釣りの指導をしていただきました。海洋センターには釣りの場所だけでなく駐車場も提供してもらい、ヨットハーバーには停泊のヨットを移動して釣り場所を広げていただくなど、運営面でも大変助かっています。

参加資格は、クラブの会員とその家族ですが、「孫が、神戸より遊びに来るので一緒に参加」とか、家族の定義が広く(曖昧?)、多くの方に楽しんでもらうことができました。また「大漁で賞」「大きいで賞」「珍しいで賞」などを設け、ゲーム感覚も加味し大好評でした。

大会では小鰻、小鯖、鰯がよく釣れます。しかし、ヒレに毒のある危険な魚が釣れることもあるため、写真やイラストを使い、色やかたち、毒のある部分などを勉強し、釣り上げたときは触らずにスタッフを呼ぶなどの説明を受けた後、釣り場所の指定を受け魚釣りの開始です。

【プログラム実施後の所感】

『海洋マリン教室』

海のプログラムでは、初めて参加の子どもは慎重に行動しますが、3年・4年続けて参加の子どもは慣れてきて、それぞれの楽しみ方を見つけているようです。また、慣れない子を手伝う等、指示しなくてもリーダーシップを取れるようになってくれます。クルージングで野生のイルカと出会ったときの子どもたちの歓声と興奮を見たときは、「この教室をやってよかった」と感激しました。

『ファミリー釣り大会』

釣り大会を観察すると、以下のように色々な様子を見ることができました。

- 魚を釣り上げるときには歓声を上げているが、釣り上げた魚をつかめずに困り顔の子ども
- 直ぐにサポートに入るスタッフ
- 2～3度繰り返すと慣れて自分で対処できる子と、何度もスタッフを呼ぶ子
- マイ竿を持って来ている子は、さすがに落ち着いて釣っている

心配していた、釣り針で手を刺したり、毒魚に触れる子も無く、短い時間ですがクーラーボックスに入りきらないくらいの魚を、笑顔で持って帰る家族を見ていると、「交流イベントは成功だった」と実感しました。このイベントは年1回のクラブ内各教室の交流会です。子どもたちは既に顔なじみになっていますが、家族や保護者はここで初めて顔を合わす人が大多数です。このような機会も必要だと感じました。

【プログラムの課題・問題点】

『海洋マリン教室』

マリンプログラムは、毎年同じ5種類のプログラムを繰り返し実施しています。半数以上の子どもは複数年、継続参加しているため、「またか」という顔をすることもあります。

その改善策として

- ① ヨットのプログラムでは、複数年参加の子で操艇レベルが向上している子には、OPヨットではなくディンギーに挑戦させることで、参加年数の少ない子どもの向上心を刺激する。
- ② 今年はカヌーの年、来年はヨットの年と年度ごとに目標を設定し、1年6回の内、数回は同じプログラムを続け操艇レベルの向上を目指す。

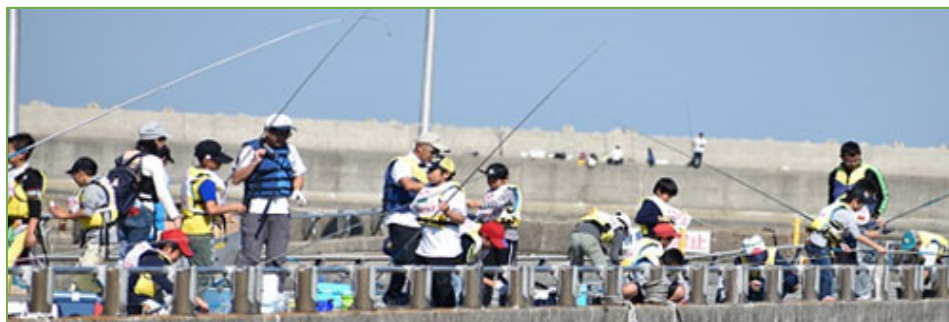
いずれも海洋センターのスタッフと相談し、最善の方法を決定していきたいと考えております。

『ファミリー釣り大会』

会員交流イベントとして開催しているため、募集チラシの配布が遅くなり、住民を巻き込んでのイベントになりにくい点が課題です。募集チラシの発行を早くして、住民参加のイベントになるよう改善したいです。

釣りのためのスペースに限りがあるため、募集人数に制限を設ける必要があります。特に今年は新型コロナウイルスへの対策から間隔を広くしなければならず、さらに募集人数を減らす必要があります。

借りた釣り竿やリールの洗浄に、予想以上の時間がかかります。それを解消するためには、洗浄作業の割り当てがスムーズに回るようスタッフの増員が必要と感じました。



ファミリー釣り大会
さあ～釣るぞー

3 スタッフの高齢化で後継者育成が課題

設立以来14年。スタッフは設立時より無償のボランティアで活動が続けていますが、高齢化も進んでいます。スタッフ、指導員の後継者を見つけることがクラブの大きな課題となっています。

また、少子高齢化社会の中で人口の減少に歯止めがかからない岬町です。体育協会やスポーツ少年団（小学生の40％が加入）でのスポーツ活動が盛んな町での、会員の確保にも苦労をしています。

低学年対象の教室に新たなニーズ 新展開でスタッフ確保目指す

こうした中で、小学校低学年を対象に平成30年にスタートし、遊びの中で運動習慣を身につけることを目標にした「キッズスポーツ教室」が大人気です。このことで低学年（低年齢）の子どもを対象にした、新しいニーズがまだまだあることに気付きました。「幼児のスポーツ教室」「子どもと母親の運動教室」などを展開できるだけのスタッフと指導者を集めることができれば、前記の問題への解決の糸口になると思っています。

（岬町総合型地域スポーツクラブみさきタコクラブ 会長 中西 正）

クラブ プロフィール

設立年月日 平成19年2月25日

所在地 大阪府泉南郡岬町

特 徴

- ・子どもから高齢者まで多世代の住民・家族が気軽に参加し、スポーツを楽しみながら生涯の健康づくりに役立てる場所を提供しています。
- ・地域の施設や企業の協力を得て、色々なスポーツを提供しています。例えば、ジュニアゴルフ教室ではゴルフ場および練習場の協力で、練習場でプロのレッスンを受けてからから、コースでのラウンドを実施しています。
- ・会費は年会費のみで全ての教室が楽しめます。これにより、教室の参加人数で収入が増減しないため、安定したクラブの予算計画が立てられます。

連絡先

〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪4546

TEL 072-494-2189 (FAX同)

URL takoclub.web.fc2.com

E-Mail t-nkns@zeus.eonet.ne.jp



10周年記念交流会
全員集合